「地域の思いをつなぐ」若者育成事業（令和３・４年度）

若者が地域の未来を切り開く！

活動事例集

青森県教育委員会

は　じ　め　に

近年の社会の急激な変化は、複雑で予測困難なものとなっております。そのため、子どもたちが「自ら学び、考え、行動する力」などの、いわゆる「生きる力」を身に付け、様々な課題に柔軟かつたくましく対応する力を培うことが一層重要になるものと考えております。

そこで、県教育委員会では、重点的に取り組む施策の一つとして、「地域で活躍する人財の育成及び県内定着の促進」を掲げ、子どもたちのふるさとに対する理解を深め、誇りや愛着心を醸成する取組や将来の社会や産業を担う人財の育成、子どもたちの県内定着に向けた取組を推進しているところです。

このような中、令和３年度から令和４年度までの２年間で、「地域の思いをつなぐ」若者育成事業を実施し、地域の魅力や課題等について話し合う「ワールドカフェ」を県内６地区で開催したほか、高校生等の若者が地域活動者とともに地域の魅力発信や課題解決等の活動を行うことで、若者の自己有用感や地域愛を育み、将来的な県内定着へつなげることを目的に、県内12の地域活動団体に協力していただいて、各地域の特色を生かした活動を展開してきました。本冊子は、これら２か年の取組内容をまとめ、刊行したものです。

各学校で地域活動について学習する教材としての活用や、市町村教育委員会をはじめ、地域づくり担当課及び地域活動に取り組んでいる方々が、地域の若者と共に活動を行う際の参考にしていただければ幸いです。

結びに、事業実施及び本書作成に当たり、御協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。

令和５年３月

青森県教育庁
生涯学習課長　渡　部　泰　雄

第１章　「地域の思いをつなぐ」若者育成事業について　1

第２章　ワールドカフェの開催　3

第３章　活動実施報告

①特定非営利活動法人 日本人財発掘育成協会（青森市）　5
②青森街活サークル 秘密結社（青森市）　8
③じゃわめき隊プロジェクト（五所川原市）　10
④つるた街プロジェクト（鶴田町）　13
⑤特定非営利活動法人 SEEDS NETWORK（弘前市）　16
⑥Asobo! Hirakawa（平川市）　19
⑦Future Generations（十和田市）　23
⑧Misawa English Activities（三沢市）　26
⑨東通YOUTH（東通村）　29
⑩特定非営利活動法人 シェルフォレスト川内（むつ市）　31
⑪市民集団まちぐみ（八戸市）　34
⑫サンノヘエール（三戸町）　37

第４章　活動成果発表会の開催　40

第５章　まとめ　42

巻末　活動団体について　44

第１章　「地域の思いをつなぐ」若者育成事業について

１　事業の目的

本県の最大の課題である人口減少克服・県内人口定着を解決していくためには、それぞれの地域への愛着と誇りを持ち、継続的な地域活動と持続的な地域づくりを担う人財を育成する必要がある。

コロナ禍で社会の意識が変化しつつある今こそ、語り合い、知恵を出し合う契機と捉え、高校生や大学生をはじめとする「地域の若者」（※１）が、これまで県教育委員会の事業等に参加し、県内各地で活躍する「地域活動者」（※２）の手法等を学び、若者がそれを手本として、自ら主体的に地域の良さ等を発信することにより、若者の自己有用感や地域愛を育み、県内定着の促進を図る仕組みを構築することを目的に本事業を実施することとした。

※１…本事業における「若者」は主に高校生・大学生を想定。
※２…これまで県教育委員会の各事業に参加し、現在もそれぞれの地域で様々な活動を行っているNPO法人等の団体や個人。

２　事業の実施期間

令和３年度から令和４年度までの２年間

３　事業概要

事業は、次の順に取組を実施した。

（１）取組１　若者と地域活動者によるワールドカフェ（令和３年度：Ｐ３～Ｐ４を参照）

地域活動者と地域の若者によるワールドカフェ（※３）を県内６地区で２回ずつ開催し、地域の魅力や課題等について話し合う。

１回目は参加者一人一人の地域に対する思いを語り合う場、２回目は参加者一人一人の思いをつなげる（マッチングさせる）場として設定する。

※３…「カフェ」のようなリラックスした雰囲気の中、少人数に分かれたテーブルで自由な対話を行い、他のテーブルとメンバーをシャッフルして対話を続けることにより、参加した全員の意見や知識を集めることができる対話手法（ワークショップ）の一つ。

（２）取組２　地域活動モデル団体等による企画・実践（令和３年度～令和４年度：Ｐ５～P39を参照）

取組１のワールドカフェを通じ、思いを共有した地域の若者と地域活動者が地域活動の企画及び実践を行う。

実践活動は、地域活動者を中心とした任意団体等をモデル団体とし、委託契約を締結して実施することとし、県内６地区で各２団体ずつ、合計12団体に委託する。

１年目は、地域の若者が委託先の地域活動団体の活動に参加し、地域活動のノウハウを学び、２年目は、１年目の活動を踏まえ、若者が主体となって企画した取組を実践し、地域活動団体はそれらを支援する。

（３）取組３　活動成果の発表・周知

①活動成果発表会（令和４年度：P40～ P41を参照）

若者が地域活動モデル団体と行った地域活動について、成果発表会を開催する。

②活動事例集の作成・配付

本事業についてまとめた活動事例集を作成し、県内中学校、高等学校、特別支援学校、市町村教育委員会、NPO法人等に配付する。

「地域の思いをつなぐ」若者育成事業

【戦略プロジェクト】未来へつなぐ「地域のゆりかご」プロジェクト

『地域の思いをつなぐ』若者育成事業（Ｒ３～Ｒ４）

生涯学習課

現状分析と課題

現状分析

○就職・進学を契機とした高校生の県外流出
○高校や大学等を卒業後、県内で暮らしたいと答える高校生　→　37.6%
（高等学校教育に関する意識調査 R1）

一方、コロナ禍において人々の意識に変化が見られ、高校生の県内就職希望者及び就職者の割合が増加している。

卒業年度	県内就職希望者（６月末時点）	県内就職者（３月末時点）
令和２年３月	63.0%	53.1%
令和３年３月	64.3%	57.0%

（青森県労働局高等学校卒業予定者職業紹介状況）

○生涯学習課でＨ30～R1に実施した「地域のお宝を学び地域活動を担う高校生育成事業」に参加した東通村の高校生については、この事業で地域の大人とともに地域活動を行ったことをきっかけに、県内の大学に進学し、現在も東通村での地域活動に参加している。

課題

・地域の若者と大人等が交流する（それぞれの思いを共有し、結びつく）機会が不足している。
・若者の自己有用感を高めたり、地域愛を育んだりするための活動が十分に行われていない。
・地域活動者を核として、地域の教育力をより高めるための仕組みが不十分である。

事業内容（アウトプット）

概要

これまで県教育委員会の事業等に参加し、県内各地で活躍する地域活動者の手法等を若者が学び、手本として、主体的に地域の良さ等を発信することにより、若者の自己有用感・地域愛を育み、県内定着の促進を図る仕組みを構築する。

取組１　若者と地域活動者によるワールドカフェ

○地域活動者と地域の若者によるワールドカフェの開催（R3）
（県内６地区×2回）
・１回目（一人一人の思いを語り、広げる場【思いの拡散】）
・２回目（一人一人の思いをつなげる場【思いの集約】）
→参加対象者:それぞれの地域の若者、地域活動者等

取組２　地域活動の企画・実践

（１）地域活動モデル団体による企画・実践(R3・R4)
取組１でつながった地域の若者と地域活動者が、地域活動の企画及び実践を行う。
【実施方法】
・各モデル団体への委託により実施(県内６地区×２団体 最大１２団体)
令和３年度：委託先の地域活動者等と活動に若者が参加し、地域活動のノウハウを学ぶ。
令和４年度：１年目の活動を踏まえ、若者が主体となって企画した取組を実施し、地域活動者はそれを支援する。

（２）活動のフィードバック（R3）
他地区の取組事例を学び、次年度の活動に繋げるため、オンライン会議システムを活用した意見交換会を開催する。

取組３　活動成果の発表・周知

（１）活動成果発表会(R4)　１回
各モデル団体の活動成果発表会を開催
（２）活動事例集の作成・配付（R4）
・各モデル団体の活動状況をまとめた活動事例集を作成し、関係各所へ配付する。

事業の目指す姿

事業のアウトカム

【中・短期的成果】
⇒　地域活動者との活動を通して、若者の自己有用感や地域を愛する心が高まることで、自分たちが生まれ育った地域で生活したいという思いが強まり、県内就職希望者の割合が増加する。

◆県内就職希望者及び就職率の向上

卒業年度	県内就職希望者（6月末時点）	県内就職者（3月末時点）
令和3年3月	64.3%	57.0%
令和5年3月	65.0%	58.5%

【長期的成果】
⇒　各地域において「地域活動者」を核とした地域ぐるみの教育のノウハウを得て、地域の教育力が高まり、継続的に若者を支えていく仕組みが構築される。

最終アウトカム

コロナ禍という困難な社会においても、多様な大人たちとの交流を通じて地域を学び、自らのキャリア形成を図り、地域への愛着と誇りを持った若者が育成され、人口減少克服・人口定着へと結びつく。

第２章　ワールドカフェの開催

高校生等の若者と、様々な活動を実践する地域活動者が地域の現状や未来、地域への思いについて話し合う「ワールドカフェ」を令和３年度に県内６地区で開催した。

周知ポスター

地区	１回目		２回目	
東青	６月27日（日）	県総合社会教育センター 参加者：大人18名　高校生６名	７月25日（日）	県立図書館 参加者：大人15名　高校生５名
	ファシリテーター：特定非営利活動法人WAKUTOKI　理事長　相内　洋輔　氏			
西北	６月12日（土）	五所川原市民学習情報センター 参加者：大人15名　高校生33名	７月17日（土）	五所川原市民学習情報センター 参加者：大人11名　高校生17名
	ファシリテーター：株式会社まちなかキャンパス　代表取締役　辻　正太　氏			
中南	６月13日（日）	弘前オランド 参加者：大人17名　高校生９名	７月18日（日）	弘前市民会館 参加者：大人14名　高校生５名
	ファシリテーター：株式会社まちなかキャンパス　代表取締役　辻　正太　氏			
上北	７月４日（日）	十和田市南コミュニティセンター 参加者：大人12名　高校生19名	８月１日（日）	十和田市南コミュニティセンター 参加者：大人18名　高校生７名
	ファシリテーター：いちのせき市民活動センター　センター長　小野寺　浩樹　氏			
下北	７月３日（土）	下北文化会館 参加者：大人19名　高校生５名	７月31日（土）	下北文化会館 参加者：大人13名　高校生17名
	ファシリテーター：いちのせき市民活動センター　センター長　小野寺　浩樹　氏			
三八	６月26日（土）	八戸市公民館 参加者：大人13名　高校生18名	７月24日（土）	八戸市公民館 参加者：大人11名　高校生９名
	ファシリテーター：特定非営利活動法人WAKUTOKI　理事長　相内　洋輔　氏			

辻　正太　氏

相内　洋輔　氏

小野寺浩樹　氏

三八会場

東青会場

下北会場

中南会場

西北会場

上北会場

ワールドカフェ参加者の感想　※主なもの

- 社会人の方からの具体的な意見や、他校で行っている商品開発などを教えてもらったことで、様々な視点から物事を考える機会となり、楽しかった。
- 社会人となり、会社の同僚だけとの関わりになると、地域の話をする機会は少ない。年代関係なく、楽しく話したり、聞いたりできてとても有意義な時間となった。
- 高校生の意見は、今の地域のよさや現状、青森県内の多くの地域が抱えている問題そのものだと思った。
- よりよい地域になるよう、こういう機会で出された課題を実現・実行できればと思った。
- 色々な世代の話が聞けた。観点は様々でしたが、人同士のつながり、居場所を求める人が多いと思った。
- 世代の壁を越えて話し合い、意見交換ができた良い機会だった。中には「これとこれを組み合わせたら面白い。」というのもあり、収穫が多かった。
- 地域のもったいない（枯れている）と感じた所も、裏を返すと良い部分になるという考えがとても斬新でおもしろかった。

第３章　活動実施報告

①　特定非営利活動法人日本人財発掘育成協会（青森市）

1　活動のねらい・方針

高校生が異年齢交流をしながら、プロの脚本家の指導のもとショートムービーを制作する体験を通し、その視点やポリシーに触れることで、プレゼンテーションやコミュニケーションの力を磨き、自らが発見した地域の魅力を発信することで地域愛を育み、地元への定着を促進する。

活動終了後の集合写真

2　団体の概要（参加者の構成等）

＜高校生＞

青森県立青森北高等学校	16名
青森県立青森西高等学校	１名
青森県立青森東高等学校	２名
青森県立青森南高等学校	３名
青森県立青森中央高等学校	７名
青森明の星高等学校	14名

＜大人の会員＞

特定非営利活動法人日本人財発掘育成協会（理事長）
特定非営利活動法人日本人財発掘育成協会（事務局長）
特定非営利活動法人日本人財発掘育成協会（理事）他

3　取組内容（事業実施の流れ）

令和３年度の活動

R3. 7.31　**映画鑑賞＆クロストーク、ショートムービー制作①**

場　所　青森松竹アムゼ、アピオあおもり
参加者　24名
内　容　映画“ふるさと”三部作の３作目「惑う　after the rain」を鑑賞後、林弘樹監督のリードで観客全員でのクロストークを行い、年齢や立場の違う多様な意見に触れた。
午後からはショートムービー作成に向けて、映像及び演出上の効果的な表現方法を学んだ。

クロストークの様子

R3. 8. 1　**ショートムービー制作②**

場　所　アピオあおもり　　参加者　19名
内　容　９チームに分かれ「30年前の過去から来た」、または「80年後の未来から来た〇〇と冒険に出る」をテーマに「ふるさと」を題材にしたショートムービーを作成。時間的制限のある中で企画、シナリオ、演者、演出、撮影を行い作品を完成させることで、意見をまとめブラッシュアップし、効率的に作業を進めるチームワークトレーニングとなった。

R3. 8.21　**コンテンツの研究**

場　所　青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸　参加者　９名

内　容　ものを伝える際の着眼ポイントや素材の選び方、また表現の違いによる受け止め方を学び、実際に外に出て写真撮影をし、それを用いてプレゼンし、評価し合うことで、多様な視点を学ぶことができた。

R3.11.21　**動画制作の発展**

場　所　青森市民ホール　参加者　９名

内　容　「地域の魅力」を動画で伝えることの効果を具体例をもとに学んだ。何をどう伝えたいか、なぜ伝えたいかを考えながら、動画を作成することで、郷土を改めて見つめ直した。

令和４年度の活動

R4. 5.29　**オリエンテーション**

場　所　東奥日報新町ビル　参加者　45名

内　容　講義：インサイドアウトの精神
演習：コミュニケーションの意味
実習：明確な意図を持つという事

演習の様子

R4. 6.12　**撮影編集の基礎１ポジションとアングル**

場　所　青森市文化会館　参加者　33名

内　容　講義：主体性を持つ
演習：異年齢交流
実習：何を撮りたいのかを決めそれに合わせて構図やショットを決める

学んだ技術を活かし撮影に臨む様子

R4. 7. 3　**撮影編集の基礎２カメラワーク**

場　所　青森市民ホール　参加者　30名

内　容　講義：目的を持って始める
演習：人が持つ枠組み・価値観とは
実習：編集を頭に入れ、10種のカメラワークを使い分ける

R4. 7.17　**撮影編集の基礎３映像効果**

場　所　青森市文化会館　参加者　33名

内　容　講義：重要事項を優先する
演習：価値観とは
実習：撮影編集の基礎　シナリオの作り方と音声

機材の扱いをマスターする

R4. 8.11　**映画鑑賞＆クロストーク　ショートムービー制作①**

場　所　青森松竹アムゼ、東奥日報新町ビル

参加者　30名

内　容　映画「ふるさとがえり」鑑賞後、脚本家　栗山宗大氏と全員でふるさとや映画をテーマに意見交換。
午後から、グループづくりやシュチュエーションを作る力をつけるワークの後、いよいよ「バケモノ来たりて」をテーマにショートムービーの作成開始。全体の構成を考えた企画をベースに脚本執筆に入った。

栗山氏から直々の指導を受ける

R4. 8.12　**ショートムービー制作②**

場　所　東奥日報新町ビル　　参加者　33名

内　容　レフ板を手作りし、グループで決めた監督のもと、完成したシナリオを持って撮影のため街に出る。
俳優、撮影スタッフは兼務。演習作業の後、各グループの発表では、作成にあたっての視点と伝えたかったことを述べた。栗山氏とRABテレビ制作部長から講評をもらう。

ショートムービー撮影の様子

4　成果と課題

この事業は、何かをする時にどういう筋道で物事を考え、それを遂行するために他者とどのように関わったら良いかという、これからの社会で生きていくための基本的なスキルを、ショートムービー制作というツールを使って体験的に身につけてもらうことがねらいである。

当然最後の映画ワークショップはプログラムのクライマックスとなるわけで、昨年度、林弘樹監督のもとで行ったものを、今年度は脚本家の栗山宗大氏の指導を仰ぎ行った。

話合いをすすめシナリオを作る様子

映画監督と脚本家では当然思考の進め方にも違いがあり、両年度を体験した高校生には、非常に良い刺激だったと思う。

要点だけを教え、「さあ行け！」と放つ林監督、用意周到に理論的かつ綿密に準備を整えてから進めて行く栗山氏。出来上がった作品にも違いが出たのではないだろうか。

このように学びを素直に吸収する高校生を見ていると、事業を実施する側として、より多様な体験ができるよう熟考してプランを考えなければならないと改めて感じた次第である。

作品は当NPOホームページ(https://www.jinnzai-japan.con/youth.html)から閲覧できる。

5　参加者の感想

【高校生等】

- 多方面からのものの見方や他者との考え方などを一つの映画を作るという形で共有でき、とても良い経験になった。
- チームで一本の映画を作るということは、大変だったが、それを超えるほどの達成感と自身の成長に繋がり、とても良かった。
- 映像コミュニケーション講座を受講したことで、映像技術だけではなく、映像を作るためにコミュニケーション能力、企画力、想像力、協調性など、様々な社会性を身につけることができたと感じている。

終了後会場外でも話をしてくれた熱心な栗山氏

【地域活動者】

- この事業は本人の自主性を重んじており、こちらから規制するものはほとんどない。逆に言えば、主体性を持って取り組まないと何もせずに終わってしまう活動である。学校・学年の壁をなくしてグループを作り、いわば初めましてのメンバーで一つのものを作りあげる大変さは想像に難くない。人間関係も含め、表に出ない苦労はたくさんあったと思うが、それを乗り越え今回６本の個性的な作品となった。作品はもちろんのこと、それ以上に経験値として彼らの宝物の一つになってくれたら本望だ。

②　青森街活サークル秘密結社（青森市）

1　活動のねらい・方針

普段の生活からは身近にありつつも感じることができない地元地域にあるコンテンツ（人、コト、モノ）に対し、街歩きや地域イベントボランティアへの参画などを通した接点を創出し、地元地域にあるコンテンツの魅力を若者が知覚する感覚を養い、若者の地域参画意識の醸成を図るとともに、次世代へ繋いでいく意識の啓発を行う。

2　団体の概要（参加者の構成等）

＜高校生（活動参加者）＞

青森県立青森東高等学校	２名
青森県立青森西高等学校	３名

＜大人の会員＞

青森街活サークル秘密結社	理事長
〃	部長
青森市内若手社会人（20代）	７名
青森市内大学生	６名

3　取組内容（事業実施の流れ）

令和３年度の活動

（１）清掃活動を通じた街歩き活動

実施期間　令和３年８月、９ 月、10月、11月、12月

（２）商店街や地域イベントへのボランティア

●芋フェス

期　日　11月６日（土）、７日（日）

会　場　青森県観光物産館アスパム

（３）青森市新町通り土偶装飾事業

実施期間　令和３年11月～令和４年２月（全４回）

内　容　新町通りに設置されている土偶のオブジェへ季節に応じた装飾を施し、日常の景色を変化させる実験事業を実施。

街歩き活動に出発

新町通り土偶に世界遺産を祝う旗を装飾

令和４年度の活動

（１）清掃活動を通じた街歩き活動

実施期間　令和４年５月、６月、７月、８月、11月、12月

※５月～７月は新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、高校生の参加は随時自粛。

（２）Z世代と一緒に!青森駅前SDGsまちあるきツアー

津軽海峡マグロ女子会との連携事業

期　日　令和４年10月８日（土）、15日（土）

内　容　青森市中心商店街をSDGsの視点を持って散策

※事前協議

①連携協議・相談

日　時　令和４年７月30日（土）、８月９日（火）

会　場　AOMORI STARTUP CENTER

清掃活動を通じた街歩き活動の様子

②モデルツアーの実施

日　時	令和４年８月28日
会　場	青森市中心商店街

（３）商店街や地域イベントへのボランティア

●芋フェス

期　日	令和４年10月８日（土）、15日（土）
会　場	青森県観光物産館アスパム

●AOMORI　COFFEE　FESTIVAL

日　時	令和４年10月８日（土）、15日（土）
会　場	青森県観光物産館アスパム

（４）青森市新町通り土偶・アートパネル装飾事業

実施期間	令和４年５月～令和４年12月
内　容	新町通りに設置されている土偶のオブジェや掲示板へ季節に応じた装飾を施し、日常の景色を変化させる実験事業を実施。

青森駅前SDGsまちあるきツアーの様子

新町通りの掲示板（アートパネル）を装飾

4　成果と課題

海岸清掃イベントへボランティアで参加

青森街活サークル秘密結社の活動は、日常的に、街に関わることで魅力や変化を感じる活動となっており、「継続して参加する」ことが肝要となっていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、大人が行う活動の中での単発的な参加に留まる結果となり、意義や地域のもつ魅力を伝えるための仕組み作りはけっしてうまくはいかなかった。

しかしながら、単発の活動ではあったが、青森市という街が与えてくれる日常は、決して退屈なだけのものではなく、視点の角度を変え、自分が住んでる街を虫眼鏡で拡大しながら見る気持ちになれば、地域の大人や地域特性を帯びたコンテンツが刺激や学びを与え、新しい価値観を形成していくことができることは若者に伝わったのではないかと考える。

5　参加者の感想

【高校生等の若者】

- 気にした事のなかった商店街のお店を歩くことができ、新たな発見があった。
- 商店街の人が給水アプリを使ってるとか、注意して見たり、聞いたりしなければわからない「面白い」ことをたくさん知れて貴重な機会になった。
- 青森市内の大学に進学するので、引き続き活動に参加したい。

【地域活動者】

- 高校生や大学生の地域参加は、人材不足が社会課題となっている地方都市にとって、未来への明るい話題である。
- 活動を続けていると、考え方が堅くなる部分がどうしても出てくる。これから地域に溶け込んでくれるであろう学生さんたちの意見は、素直な分、まっすぐに問題や課題を捉えている場合があって、逆に勉強をさせてもらった。

③　じゃわめき隊プロジェクト（五所川原市）

1　活動のねらい・方針

地域の公共交通機関の一つである五能線についての理解を深めると共に、五能線の魅力を発見する。

また、五能線の魅力を高めるために若者の視点から活性化策を考え実践を行う場を創出する。

参加者全員による集合写真

2　団体の概要（参加者の構成等）

＜高校生＞

五所川原第一高等学校　31名

五所川原商業高等学校　５名

＜大人の会員＞

五所川原第一高等学校教員（２名）

五所川原商業高等学校教員（２名）

市民団体つ・な・がる　代表

3　取組内容（事業実施の流れ）

令和３年度の活動

R3. 7.24　**メンバー同士の顔合わせ**

場　所　津軽鉄道五所川原駅

内　容　津軽鉄道と地域についての学び津軽鉄道乗車体験

フィールドワーク

R3.10.16　**市浦清掃活動大作戦**

場　所　市浦シーサマーサイドハウス近くの海岸

参加者　13名

内　容　五所川原市役所市浦支所と連携し、清掃活動を行った。高校生の他、地域の方も参加したため、よき交流の場となった。

R3.11.27　**SNSを活用した地域の魅力発信講座**

場　所　五所川原第一高等学校研修室

参加者　25名

内　容　下北弁YouTuber村中辰徳氏から、SNSを通じた情報発信の手法を学んだ。またYouTubeの作成のコツなどを学び、実際に１分間程度の動画を作成し上映会を実施した。

SNSを活用した地域の魅力発信講座

R3.11.27　**地域の魅力発信マップ作成のためのフィールドワーク**

場　所　津軽鉄道沿線（五所川原市、中泊町）

参加者　17名

内　容　津鉄アモーレと連携し、津軽鉄道沿線のSNS映えするスポットの撮影を実施。

令和４年度の活動

R4. 5.10　**第１回ワークショップ（五能線魅力UPカードのためのワークショップ）**

場　所　五所川原市民学習センター
参加者　44名
内　容　五能線の乗客数増加のためのワールドカフェを実施。大学生や地域の大人も参加しカードのテーマに対するアイディア出しを行った。

第１回ワークショップ

R4. 8.25　**JR職員を招いてのミニワーク**

場　所　五所川原第一高等学校　参加者　11名
内　容　JR東日本で作成している駅カードの取組についてのインタビューを実施した。

JR職員を招いてのミニワークショップ

R4. 9. 1　**事業立案ワークショップ①**

場　所　五所川原第一高等学校　参加者　10名
内　容　魅力UPカードの方向性の決定
完成イメージの共有

R4. 9. 2　**事業立案ワークショップ②**

場　所　五所川原第一高等学校　参加者　10名
内　容　作成までの計画立案、協力校の選定

R4. 9～12　**カード作成のための取材活動**

内　容　各高校それぞれ取材活動を実施
12月に取材データ集約、カード作成

三校合同ワークショップ

R4.11. 2　**配布場所決定のためのワークショップ**

場　所　五所川原第一高等学校　参加者　21名
内　容　五能線沿線の木造高校・鰺ヶ沢高校を交えた交流、カードの配布部数・配布場所の決定

R5. 1～　**活動のまとめ、発表会準備**

場　所　五所川原第一高等学校
内　容　完成したカードを各高校へ発送、配布
発表会へ向けたスライド作成

4　成果と課題

当団体は高校生と地域をつなぐ場づくりを大きな事業の柱として取り組んでいる。一年目は、課外活動の禁止期間があるなど制限を受けての活動であった。その中で、地域の魅力発信のためのスキルアップを主軸に活動を行った。二年目はその活動の土台の上に、五能線沿線地域の魅力発信と高校のつながる場づくりを行った。成果としては、ワークショップを通して地域の方と高校生がつながることができ、視野を広げるとともに、動画編集や多世代とのコミュニケーションスキルを身に着けることができた等が挙げられる。

完成した五能線魅力ＵＰカード

課題として、コロナ禍により計画していた事業を中止、延期せざるを得ない状況があり、柔軟な対応を迫られる場面が多くあったことである。本来ならば、カードにQRコードを付けて動画作成も行う予定であったが、そこに至らなかったのは反省点である。今後は五能線沿線の高校と関係性を深めるような活動の場づくりに取り組んでいきたい。

本事業を通じて高校生が主体的に地域と関わることができたと感じる。普段接することがない大人と接することで視野を広げ、物事を多角的・多面的に見つめることができる思考力や判断力を身に着けることができた。さらに、自ら地域課題解決へ向けて活動することで課題解決能力育成に寄与できたと感じるので、今後も継続的に高校生を含めた若い世代に地域と関わる場の提供をしていきたい。

5　参加者の感想

【高校生等】

- このような学年、年齢の壁をこえての活動をすることが少なく、ワークショップに参加できてよかった。意見を出し合ったり聞いたりしていると、おもしろい意見に出会えたので参考になった。そして、以前より五能線に興味を持てた上に、このプロジェクトやじゃわめき隊の活動を頑張りたいと心から思えるようになった。
- 大学生や大人の方々と話す場はあまりないので、今後も機会があれば参加したい。
- コロナ禍という中で、ミニワークという形であったが、他校と交流することができ、大変充実していた。

活動成果発表会の様子

【地域活動者】

- 普段、高校生とあまり関わる機会がないのでこのように関わる機会を持つことにより、若い方が考えている意見を聞ける場となった。
- 高校生が積極的に地域との関わりを持てたことは、地域のことを調べながら「ジブンゴト」として捉えることにつながったと思う。また、他の高校生や大人とつながりを活かした活動に発展したことで非常に充実した時間であった。

④　つるた街プロジェクト（鶴田町）

1　活動のねらい・方針

地域に在住する若者（高校生等）の「もっとこういう活動・イベントがしたい」、「もっと学校で学べる以外の知識・経験を増やしたい」というような思いに応える為に、活動自体のサポートをする。

それによって、自分の今いる地域でも自分のやりたいことができると感じてもらい、この事業で得た知識や経験をシードとして、自発的に発想し、プラン構想と活動につなげられる人材育成の助力を図る。

活動の様子

2　団体の概要（参加者の構成等）

＜高校生＞

青森県立鶴田高等学校　１名

青森県立木造高等学校　５名

＜大人の会員＞

つるた街プロジェクト会員　11名

3　取組内容（事業実施の流れ）

令和３年度の活動

R3.12.28　**ワークショップ**

場　所　鶴田町アトリエKOMO

参加者　高校生１名、ファシリテーター３名

内　容　自分を知り、仮のプランをたてる。

R4. 1. 2　**講師選定**

場　所　鶴田町アトリエKOMO

参加者　高校生１名、ファシリテーター３名

内　容　プランの実現性を高めるための講師を選定。

R4. 1.11
1.18　**講師による講習会**

場　所　鶴田町アトリエKOMO

参加者　高校生１名、ファシリテーター３名

内　容　講師３名による講習会の実施。

R4. 1.20　**プラン構想の実施**

場　所　鶴田町アトリエKOMO

参加者　高校生１名、ファシリテーター２名

内　容　仮プランをブラッシュアップして工作ワークショップのプランを立案。

ワークショップの様子

講習会の様子

令和４年度の活動

R4.12.10　**ワークショップ実践に向けての打ち合わせ**

場　所　鶴田町アトリエKOMO
参加者　高校生１名、団体員３名
内　容　Ｒ３年度で立案した工作ワークショップを再検討し、ケーキデコレーションワークショップに再設定。

ワークショップの事前準備

R4.12.20　**チラシ配布**

場　所　鶴田小学校
参加者　高校生１名、団体員１名
内　容　小学生への周知のため、チラシを配布。

R5. 1. 9 AM　**ケーキワークショップ事前準備**

場　所　鶴田中央公民館
参加者　高校生６名、団体員２名
内　容　ケーキデコレーションのための食材、道具の準備、司会、進行の打ち合わせ。

ワークショップの様子

R5. 1. 9 PM　**ケーキワークショップ実施**

場　所　鶴田中央公民館
参加者　高校生６名、団体員２名、小学生12名
内　容　ケーキワークショップの実施。

R5. 1.23　**活動のまとめ、プレゼン準備**

場　所　高校生自宅
参加者　高校生１名、団体員２名
内　容　発表会に向けて活動の整理をし、プレゼン資料を作成。

プレゼン資料の作成

4　成果と課題

プラン作成の様子

自発的な「やりたい」を持った高校生に参加頂けたことにより、スムーズに進められた。気持ちはあるが、最初は内容が漠然としていたプランに対して、専門的な知識をもった講師に講習会をしてもらったことにより、エビデンスを伴う、かなり現実的なプランにブラッシュアップすることができた。また、状況に合わせたプランの再考など、実際企画を進める上で起こりうる状況が偶然発生し、それに対処する体験にもなった。アイディアを考える機会はあっても、学校以外の実社会をフィールドにした実践の機会は少ないので、一貫して実践までやり遂げられたことは本人にとって強い達成感を感じる大きな要因となれた。

本人も「自分はこんなに鶴田町が好きなんだと思った。」と述べており、この事業が本人の地域愛を自覚させる一助となったと言える。

Ｒ３年度はコロナの感染状況の影響を受け、日程が大幅にずれ込み、高校生への周知がかなり限定的になってしまった。次の機会には周知をもっとできるよう、オンライン化の強化を模索していきたいと思う。

また、今回のワークショップの実践時期が冬休みと限定されていたため、参加希望をしていた高校３年生の参加が難しくなった。本活動を行った２年間とも参加者が少ないという課題が生じたため、参加しやすい時期や学校行事の把握を事前に行い、参加したい高校生が参加しやすい環境を整えられるよう動きたい。

発表会の様子

5　参加者の感想

【高校生等の若者】

- 今回のワークショップは小学生が対象でケーキのデコレーションをするものだった。参加者がクリームを塗ったりフルーツを飾りつけたりしていく中で、納得のいく形になるまで試行錯誤している姿が印象に残っている。私自身お菓子作りや料理が好きで失敗も成功もしてきたが、どれも思い出になっている。参加者にとってもそのような思い出になったらいいと思う。
- 自分で考えた理想のワークショップに対して、こうしたらうまくいくかな？ああしたらいいかな？など考えること自体が楽しかったし、予想通りになって達成感があった。
- 部屋は暖かくしたいけど、暖かくするとクリームが溶けてしまうのが予想していなかったので大変だった。またこのような企画があったらぜひ参加したい。

【地域活動者】

今回参加した高校生は、自分の意志をもって自分に必要なスキルを考えたり、プランの修正を英断したりと、自分事としてとらえる力がとても備わっていると思った。

また、好きなことと問題解決の両方を兼ね備えた企画を立てる視点をもともと持っていたが、それを講師の方の話を聞くことで、より精度の高いものにしていたと感じた。終わった時の高校生本人の感想として、「自分は地域がこんなに好きなんだと感じた。その感覚を自分の下の世代にシェアしていきたい。」と述べていて、今回の事業を行って本当によかった。

⑤　特定非営利活動法人 SEEDS NETWORK（弘前市）

1　活動のねらい・方針

青森県内在住で、県外・海外で活躍している講師を招き、進学、就職、結婚等、人生のターニングポイントでどのような選択をしてきたか、経験談を聴きながら、参加者がライフプランを形成する意識を醸成することを目的とする。また、地域への愛着や自己の可能性に気づくきっかけをつくり、地域の絆を育てる場とする。

～言葉（말）～

2　団体の概要（参加者の構成等）

＜高校生＞

青森県立弘前南高等学校	21名
青森県立五所川原高等学校	１名
青森県立弘前工業高等学校	２名
青森県立尾上総合高等学校	２名
東奥義塾高等学校	５名
青森県立弘前実業高等学校	１名

＜大人の会員＞

特定非営利活動法人 SEEDS NETWORK	３名
弘前大学学生	22名
社会人	15名

3　取組内容（事業実施の流れ）

令和３年度の活動

●弘前にいながらにして韓国を体感する。
弘前市在住外国人との交流から地域の国際性を知る。
ミクロからマクロへ。点から無限へ。大きな視野で地域を捉えることで、今いる場所が世界につながる可能性の扉だと気づく機会とする。ツールとして韓国にルーツがある社会人や留学生との交流を図り、韓国の食文化・言葉にふれる場として「恋せよヤンニョム、愛せよ韓国」を４回に渡り実施した。

～食文化（음식 문화）～

（１）～食文化（음식 문화）～

日　時　令和３年10月16日（土）13時～15時
場　所　集会所 indriya
人　数　16人
講　師　村谷　英淑　氏

●相手との関係性を尊重するという韓国のマナーを踏まえて、韓国語で自己紹介をした。
●ヤンニョム（韓国調味料）作りと伝統的な食器の扱いと食事の作法。
●日本と韓国の文化の違いを学びながら、講師である村谷氏が日本で暮らすことになったきっかけについてお話ししていただいた。

（２）～記憶（기억）～

日　時　令和３年11月20日（土）13時～15時
場　所　集会所 indriya
人　数　12人
講　師　鹿嶋　英恵（ヨンエ）氏／弘前大学書道部

●韓国語の仕組みとイメージの講義
ハングルカリグラフィー
ハングルが音素文字であることの説明から、文字について学んだ。

弘前大学書道部の指導によりハングルカリグラフィーを書いて言葉を作品として表現した。

キムジャン

（３）スピンオフ「キムジャン（キムチ作り）」

日　時　令和３年11月27日（土）13時～16時
場　所　集会所 indriya
人　数　16人
講　師　村谷　英淑　氏

（４）～言葉　말　～

日　時　令和３年12月18日（土）13時～15時
場　所　集会所 indriya
人　数　12人
講　師　朴　柱炫（パク・ジュヒョン）氏／佐藤　萌野　氏

●韓国語の会話練習　単語カードを使いコミュニケーションのためのワークを行った。韓国から弘前大学に留学している学生からネイティブ発音、フレーズを学んだ。日常的な言葉の使い方を通して、多くの単語を学ぶことができた。音楽など、韓国の若者文化を題材にし、積極的に会話を楽しむことができた。

（５）実践活動～リーフレット製作

期　日　令和３年12月18日（土）～令和４年１月31日（月）の期間

●自分の暮らす地域が国際色豊かな場所であるという気づきを促すため、リーフレット製作を通して体験を整理した。製作に当たっては大学生が講師となり、オンラインを活用した講座や作業分担を行いながら協働した。完成したリーフレットは弘前市内高校へ配布した。

令和３年度のリーフレット

令和４年度の活動

●地域資源の豊かさを実感し、地域への愛着や自己の可能性に気づくきっかけとして「食」をテーマに「青森が豊か」を実施した。
ワークショップ体験形式で対話できる場を設け、調理実習も行った。

（１）３時のおやつ

日　時　令和４年10月１日（土）14時～16時
場　所　集会所 indriya
人　数　10人
講　師　奥本　美香　氏

●フランスでの修行経験や現在の仕事についてお話しいただき、参加高校生からは、進路や高校生活についての相談がなされ、初志貫徹し夢を叶えた奥本氏から、「自分のやってみたいことに挑戦してみよう」と思われる回答があった。調理実習（モンブランロールケーキ）では、具体的な製菓技術を教えていただいた。パリの硬めの生地やクリームの違いを調理し、実食することで体感できた。

「3時のおやつ」の様子

（２）お弁当

日　時　令和４年11月５日（土）14時～16時
場　所　集会所 indriya
人　数　８人

講　師　高谷　香織　氏

●高谷氏は、インスタグラマーとして活躍するお弁当料理家。食とデジタルの働き方やお弁当作りのきっかけなどについてお話いただいた。どうやったら身近な人に喜んでもらえるかを考えることが、力を発揮する原動力になるとのこと。

「お弁当」の様子

（3）実践活動～リーフレット製作

期　日　令和４年12月～令和５年１月

場　所　インターネット上及び集会所indriya

4　成果と課題

（1）２か年を通して、地域の活動者と高校生との交流をきっかけに、「自分自身を」、「ふるさと青森を」、そして「世界の中の日本」を意識する機会の創出を狙った。「韓国の文化や言葉」、「食」といった高校生が関心のあるトピックでアプローチした。今年度は、食をテーマとしたところ、理系志望の高校生の参加が目立ち、進路に関する内容の相談が多かった。

（2）食という営みを軸にした本事業では、自分で調理をし、食べることの大切さや楽しさを感じながら、講師の経験談及び生きる上で大切にしていること（信条）を聞くことで、各々の働き方・生き方を考え、自分の将来の可能性と視野を広め、前向きにライフプランを考えるきっかけとすることができた。

（3）昨年度の参加者（当時高校３年生）が弘前大学に進学し、弊団体が協働する学生団体＠ぼくらしnextに加入し、今年度は事業の企画・運営を担い、高校生をサポートした。なお、「青森が豊か」のフライヤーも当該学生が制作したものである。

（4）連続、継続して実施したことで、人がつながり、広がり、循環を実感することができた。「地域をつなぐ」若者育成事業の目的である、地域との絆＝「つながり」を育むことができた。

（5）課題としては、いかに柔らかい場を作るかというがということがあげられる。対話形式や少人数のグループに別れて活動するなど、参加者がリラックスできるような場づくりを心がけたい。

令和４年度フライヤー

5　参加者の感想

【高校生等】

●韓国からの留学生から発音を教えてもらい、新しい単語も学ぶことができた。

●進路の決め方で自分の目標を諦めないことがすごく重要だと再認識することができた。

●今までお弁当を作る時に、見られたら嫌だなって思っていたが、講演会に参加したことで彩りや配置を考えて作る楽しさを感じることができた。

【地域活動者】

●高校生、社会人問わず、テーマを持って交流し、タテとヨコのつながりが広がった。

●進学についてだけではなく、自分のやりたいこと、キャリア、生きている中で大事なことを考えた。

⑥　Asobo! Hirakawa（平川市）

1　活動のねらい・方針

平川市を盛り上げるイベントの運営活動を通して、地域の良さ、活動者の熱量、支援者の存在、参加者の笑顔など、自分たちが知らなかった地域の一面に触れることを１年目のねらいとする。

２年目は、中学生や高校生などの未成年をターゲットとして、中高生が平川市で遊んで、平川市を楽しみ、そして、ちょっと地域貢献性のあるイベントを検討し、企画実施することを通して、同年代の結びつきと主体性を育み、限定性のある企画を企てることで、地域資源の活かし方を体験し、地域への愛着を育むことをねらいとする。

活動の様子

2　団体の概要（参加者の構成等）

＜高校生＞

青森県立弘前南高等学校	４名
弘前学院聖愛高等学校	１名
青森県立弘前実業高等学校	１名
青森県立黒石高等学校	１名

＜大人の会員＞

学研ひらか・おのえ教室（代表）
弘前市役所（副代表）
特定非営利活動法人　グリーンファーム農家蔵（事務局長）
弘前市役所（理事）

3　取組内容（事業実施の流れ）

令和３年度の活動

R3. 9. 6　**Zoomによるメンバー同士の顔合わせ、自己紹介**

R3.10. 3／10.10
イベント運営サポート体験
「秋桜と乙女の真心秋の空ヨガ」
場　所　Open Garden大きなくりの木の下で
参加者　21名
内　容　託児サービス付きのモーニングヨガイベントの運営

R3.10.17　**イベント運営サポート体験**
「華麗（カレー）な庭でアコースティックライブ」
一般来場者　50名程度
内　容　素敵な庭を眺めながらカレーを食べてアコースティックライブを楽しむというイベントの運営

R4.2. 2　**活動のまとめ（zoomにて）**
参加者　メンバー４名
内　容　令和３年度の活動を振り返り、次年度の活動について話し合った。

Zoomミーティングの様子

ヨガ託児サービスサポートの様子

アコースティックライブの様子

令和４年度の活動

R4.7.24　**キックオフミーティング**
内　容　メンバー同士の顔合わせ、今年度の活動について

R4.8.28　**Zoomミーティング**

R4.9.11　**Zoomミーティング**

R4.9.11／9.18／9.25
イベント運営サポート体験
「秋桜と乙女の真心秋の空ヨガ」
場　所　Open Garden大きなくりの木の下で
参加者　3名
内　容　託児サービス付きのモーニングヨガイベントの運営

R4.10.9　**イベント運営サポート体験**
「I♡CURRY ヶ関カーニバル」
場　所　道の駅いかりがせき
来場者　1700名
内　容　多くの人々を惹きつけるカレーとアイドルなどのステージパフォーマンスによる華やかなパワーで碇ヶ関のポテンシャルを地域に楽しく発信するイベントの運営

R4.10.29／10.30
イベント運営サポート体験「猿賀ルチャー祭り」
場　所　猿賀公園（平川市猿賀石林94）
一般来場者　3000名
内　容　さまざまなカルチャーステージを設けていつもとは違う猿賀公園の楽しみ方を提案する。また、来場者の園内散策を促すことで秋の猿賀公園を平川市の紅葉狩りスポットとして、新たにPRすることを目的としたイベントの運営をした。

R4.11. 1　**アップルウェーブラジオ出演**
Asobo!Hirakawaパーソナリティ
「夜は気ままに」にてイベント告知

R4.11. 1　**Zoomミーティング**

R4.11. 5　**イベント会場（平川市中央公園）下見**

R4.12.16　**Zoomミーティング**

キックオフミーティングの様子

モーニングヨガの様子

I ♡CURRY ヶ関カーニバルの様子

猿賀ルチャー祭りの様子

ラジオ出演の様子

R4.12.18　**実施事業の開催**
「イルミネーションフェスティバル2022」
場　所　平川市中央公園 芝生広場
一般参加者　200名
内　容　11月22日から２月14日に開催するひらかわイルミネーションプロムナードに合わせて、弘南鉄道区間内（弘前～黒石間）の高校生が、平川市を訪れ、平川市を楽しんでもらうためにオリジナルキャンドルカップ100個に一斉点灯および、ハーバリウムやサンドアートなど体験ブースや、フード出店を企画し実施した。

イルミネーションフェスティバルの様子　　成果発表会の様子

4　成果と課題

最初のうち、自分がどう動くかという視点（フォーカスが自分視点）に行動の起点があった高校生たちが、イベントの企画立案～開催までを通して、チームとして、何かをやる考えを身につけられたことが成果の１つと考える。また、地域の持つ可能性や課題（実情？）を知るキッカケになった点も本事業の成果だと思う。

課題としては、０から１を生み出す発想力のアップ。こんなことしたら面白いだろうなぁと、頭を柔らかくして考えられるようになってほしいと思う。また願わくは、面白そう＋やってみよう！と、構想と行動がセットで物事を進められるようになってほしい。

そのためにも、今後は同じような志を持った大人たちが平川市にはたくさんいるので、紹介して繋がりを持たせ、もっと地域の盛り上げに意欲を持てるよう支えていきたいと思う。

活動の様子

5　参加者の感想

【高校生等の若者】

- 私は今回のイベントで初めてイベントを企画し運営した。全てが初めてのことばかりで、お店の出店交渉、キャンドル製作の依頼はどのようにお願いするか、締め切り厳守で物事を進めていくということはとても大変だった。しかし、高校生メンバーで協力し合いながらイベントを成功に導くことができた。
- イベントを通して計画力、行動力の大切さを学んだ。また、フライヤー作りやイベント会場の準備、人員募集など、今までやったことのなかった経験をすることができて、新鮮で楽しかった。誰かと何かを作り上げる事は、こんなに楽しくて達成感があると知り、これからもっといろんなことに挑戦していこうと思った。

- 大きなイベントに参加させていただき、１からイベントを考え実行できるという普通の高校生では成し得ない経験、とてもありがたく、楽しかった。この経験を活かし若い世代として確信的に青森県を盛り上げていきたいと思った。本当に素晴らしい機会ありがとうございました！
- Asobo! Hirakawaでの活動を通して、イベント一つ一つに対して何度もzoomをしたり、協力してたくさんの準備を進めたりしたことで、イベント当日までのスケジュール計画を立てる重要性や前々から早め早めで準備をしていくことの大切さを学んだ。

【地域活動者】

- 平川市にどんな楽しいことを起こそうかと、ともに２年間活動できたことに感謝！最後、高校生たちから「今後もAsobo! Hirakawaメンバーとして活動していきます。」と当たり前かのように言われたことが最高に嬉しかった。
  思いがつながった瞬間を感じた。ありがとう。そして、この先もよろしく！

⑦　Future Generations（十和田市）

1　活動のねらい・方針

【IT起業】【医療】【教育】【社会起業】【農業】【介護福祉】【障害福祉】など、各業界、各業種で活躍する地元の第一人者との交流会を開催し、地域の本気の大人との対話を通して職業観を養い、視野や夢、進路選択の幅を広げると共に、地域のことをより深く知ることで地元への愛着を図る。

活動の様子

2　団体の概要（参加者の構成等）

＜高校生＞		＜大人の会員＞
青森県立三本木高等学校	11名	株式会社習学ゼミ
青森県立三本木高等学校附属中学校	４名	株式会社ビーコーズ
十和田市立十和田中学校	１名	有限会社十和田乗馬倶楽部その他

3　取組内容（事業実施の流れ）

令和３年度の活動

R3.10.10　**キックオフミーティング**

ねらい　未来を切り拓くヒントを見つけるために、地域の本気の大人たちとの対話の重要性を学ぶ

内　容　事業（プロジェクト）の目的や内容の共有
活動参加メンバーの顔合わせ、意識共有

講　師　早稲田大学マニュフェスト研究員、佐藤淳氏による情報提供と事例紹介
NPO法人縁塾理事、田口　裕斗氏による岐阜県可児市エンリッチプロジェクトの紹介

第１回中高生×地域の本気の大人交流会

R3.12.05　**第１回中高生×地域の本気の大人交流会**

内　容　Future Generationsのメンバーによる活動内容説明
地域活動者の紹介
ゲストスピーカーによる活動紹介
小グループによる対話の場

講　師　元特別支援学校校長　千葉　隆史　氏
CONSEファーム代表　赤石　英二　氏

その他　活動ミーティング・打合せ…複数回随時
ゲストスピーカーの人選
プレゼンテーション準備
司会打合せ、会場設置準備等

司会をする高校生

令和４年度の活動

【令和４年度の活動】

R4. 5.21　**第２回中高生×地域の本気の大人交流会**

内　容　Future Generationsのメンバーによる活動内容説明、地域活動者の紹介
ゲストスピーカーによる活動紹介

講　師　グーグル・クラウド・ジャパン
上級執行役員　石積　久昭　氏

第３回中高生×地域の本気の大人交流会

R4. 8.28　**第３回中高生×地域の本気の大人交流会**

内　容　Future Generationsのメンバーによる活動内容説明
ゲストスピーカーによる活動紹介

講　師　クラウン法律事務所
代表弁護士　藤川　久　　昭　氏

佐藤　弘氏による講演会

R4.11.19　**COMMUCALプロジェクト特別編**

内　容　「食卓の向こう側」シリーズ著者
西日本新聞社　佐藤　弘　氏による講演会
「生きる力」や「自己肯定感」を伸ばすための実践型の食育の取組みから自分を大切にすることと親への感謝の気持ちを大人と一緒に学ぶ

R4.12.17　**第４回中高生×地域の本気の大人交流会**

内　容　Future Generationsのメンバーによる活動内容説明
地域活動者の紹介
ゲストスピーカーによる活動紹介
小グループによる対話の場

講　師　医療社団法人相心会 ワイズクリニック
理事長　米田　吉位　氏
「在宅医療から見える日本の将来」について

その他　活動ミーティング（打合せ…複数回随時）
ゲストスピーカーの人選プレゼンテーション準備、司会打合せ、会場設置準備

4　成果及び課題

地域の大人との「対話」の場は、子供たちにとって非常に大切であり、有意義であることがわかった。これを継続していく「仕組み」が地域に必要である。

5　参加者の感想

【中高生の感想】

●私は今回プレゼンを行った。不安ばかりで始まってからも足の震えが止まらず、ずっと緊張していた。しかし、終わってからはやり切ったという達成感があり、とても貴重な経験になった。また１回目の交流会と比べて積極的に対話をすることができた。大人の方々のお話をたくさん聞くことができ、選択肢がたくさんあり、今やるべき事のヒントになることもあった。特に学校だけの学びだけでなく地域を通しての活動が大切なこと、たくさんの出会いや経験が大切であることが印象的だった。普段の生活の中ではなかなかできないことが今回たくさんできたと思うし、聞くことができたので良かった。
また、この経験をさせてくださった大人の方々やメンバーの皆さんに感謝をし、これからも積極的に取り組みたいと思った。交流会でお話を聞いて、自分がやりたいことやいい人との出会いは

本当に大切だなと感じた。自分が好きなこと、やりたいことの出会いは自分の強みになったり生きがいになったりするんだなと思った。人との出会いは人生をも変えてしまうんだと知った。これからも自分が好きなことを探していきたい。また、いい人と出会えるような自分になれるように努力していきたい。

●今回の交流会では、大人の方からたくさんの得るものがあった。特に最初の「人は何故働くのか」について、班の意見は全員一致で「人のため」だった。しかも、仕事が苦ではなく自分がやりたいことの延長で人の役に立っているとおっしゃっていた方がいて、まさに自分がなりたい大人像だった。
仕事を仕事としてではなく、楽しいからやっていて、それが結果的に他人を喜ばせることができるのはやりがいも感じられると思った。今回の交流会で学んだことをこれからの人生で活かしていきたい。

●地域で活躍される大人の方のお話を聞くことは学校では全然ないので、とてもいい機会だった。すでに働いている方々の話を聞くことで仕事に対する価値観が変わり、将来の参考になった。貴重なお話がたくさん聞けてとても有意義な時間だった。

●今回の交流会に参加し、普段気づくことが出来ない地域の課題や魅力を発見することができた。また、将来の夢や目標を叶える方法や働く意味を、本気の大人の皆さんと議論できたことは、とても刺激になった。次回もぜひ参加したい。

●目標の立て方や挫けた時にどうするかは、今まで誰かと話し合ったことも自分で考えたことも無かった。自分でもよくわかっていなかったので、いろいろな人の考えや大人の方からのアドバイスを得る事ができて良かった。

●医療というと病院で行う事で私たちには関係ないものだと思っていた。
しかし、そんなことはなく地域で交友関係を持つや、連携サポートが必要なことなどできることはたくさんあるということがよくわかった。
特別支援学校の先生になるためには医療の知識も大事になってくるので私もしっかり未来の自分に向けて勉強しようと思う。

●今回の交流会も、大変有意義なものとなった。なぜなら、わたしの考え方が変わるきっかけとなったので。私の中には地元に帰って就職するというのは選択肢になかったが、今回のお話を聞いて地元へ帰ってきて働くことのよさが発見できた。
これは、交流会にきてくださった地域の本気の大人の方々のおかげである。今後も、自分自身の人生と交流会を結びつけられるよう活動をがんばりたい。

大人との対話に臨む高校生

⑧　Misawa English Activities（三沢市）

1　活動のねらい・方針

高校生が、大学生や様々な分野の大人と一緒に活動していく。高校生一人ひとりの夢に繋がるようなプログラムを提供していく。この活動を通し、地域の魅力を知り、社会で生きていくために必要なことを学び、新たな発見や刺激を受けて未来の自分をつくっていく。また、自己有用感を高めるような対応を心がける。

自分だけの国際交流をつくろう和太鼓演奏

2　団体の概要（高校生参加者・サポーター構成等）

＜高校生＞

青森県立三沢高等学校	50名
青森県立三沢商業高等学校	３名
青森県立三本木高等学校	18名
青森県立七戸高等学校	４名
青森県立八戸高等学校	１名
青森県立八戸北高等学校	２名
八戸工業高等専門学校	１名
八戸聖ウルスラ学院高等学校	18名
八戸工業大学第二高等学校	４名

＜大人の会員＞

弘前大学、青森県立保健大学、
自治医科大学、JICA（青森・仙台）
三沢市役所、三沢市ALT、米海軍、
三沢基地内団体、三沢市和文化団体、
街歩きガイド、appcycle株式会社、
その他個人ボランティア

3　取組内容（事業実施の流れ）

令和４年度の活動

R4. 5.15　**医学部生×医学部を目指す高校生オンライン交流**
参加者　高校生５名
サポーター　弘大生２名、自治医科大生１名

R4. 5.22　**高大連携長寿県創造プロジェクト**
場　所　三沢市国際交流センター
参加者　高校生29名
サポーター　県立保健大生10名、教職員３名、弘大生３名
内　容　大学生が短命県について講義
各グループに分かれて活動

保健大生考案減塩レシピ調理実習の様子

R4. 5.22　**自分だけの国際交流をつくろう（オンライン／発展途上国の教育）**

R4. 5.29　**マックテレビに挑戦（三沢市ケーブルテレビにて国際交流の意義を語る）**
場　所　三沢市国際交流センター内マックTV
参加者　高校生２名　　サポーター　三沢市

R4. 6.14　**自分だけの国際交流をつくろう（オンライン／発展途上国貧困・スポーツ）**
参加者　高校生５名　サポーター　JICA青森

R4. 6.23　**自分だけの国際交流をつくろう（日米道徳教育の違い）**
場　所　三沢市国際交流センター
参加者　高校生１名　サポーター　三沢市長通訳

R4. 7.23　**自分だけの国際交流をつくろう**
場　所　三沢市国際交流センター
参加者　高校生30名
サポーター　三沢市、米海軍、三沢基地内団体、三沢市和文化団体など
内　容　高校生自身で国際交流を企画

浴衣で国際交流

R4. 8.10　**カフェから街は創られる（三沢市街地まち歩き）**
参加者　高校生２名　サポーター　街歩きガイド

R4. 8.12　**地元で起業するという人生の一つの選択肢（オンライン）**
参加者　高校生４名　サポーター　appcycle株式会社

R4.10.29　**ハロウィンミニツアー（三沢基地内）**
参加者　高校生15名　サポーター　三沢基地内団体

R4.10.30　**英語でインタビュー**
場　所　三沢市中央商店街
参加者　高校生７名　サポーター　三沢市
内　容　Misawa Market Caravanにて外国人来場客に英語でインタビュー

インタビューの様子

4　成果と課題

参加した高校生は、これまで知らなかった地域の人、ものを発見できたようだ。そして活動を通していい刺激を受け、自分の夢へのモチベーションが高まった。

関わった人達の丁寧な対応により、自分達はこの地域に必要な人材なんだという意識も芽生え、その後の行動にも影響があった生徒もいた。

地域と結びつきながら活動することは、高校生にとっても、地域にとっても非常に意味があると分かった。

しかしながら、この意義が学校、地域住民にはまだまだ浸透していないと感じた。

成果発表会の様子

また、高校生は非常に忙しく、参加したくてもできない状況の生徒も存在した。

5　参加者の感想

【高校生等の若者】

- 今まで知らない人・モノを知れてよかった。
- 自分の夢に繋がる活動であった。
- 視野が広がった。
- テストのための英語ではなく、コミュニケーションとしての英語の重要性を感じた。
- 他人と協力して一つのものを作るいい経験ができた。

ハロウィンミニツアーの様子

【地域活動者】

- 高校生の斬新な発想は参考になる。
- 地域にあるいいものや、これまでやってきた思いを伝えることができた。
- 若者に対して本当に与えなければいけないことが見えてきた。
- 自分自身もいい学びになった。
- 高校生との繋がりは、今後の財産になりそうだ。

【実施プログラムの詳細】

実施プログラムの様子をwebマガジンにまとめた。
参加者にどんなメリットがあるのか考えるきっかけとなる。
QRコードを読み取ってご覧ください。

⑨　東通YOUTH（東通村）

1　活動のねらい・方針

東通YOUTHは、高校生目線で東通村の地域づくり活動を行う団体である。活動の狙いは、地域の大人たちも巻き込みながら高校生目線での地域づくり活動を企画から実践まで行っていくことである。

令和３年度は「東通村をバズらせよ！高校生目線での魅力発信事業」というテーマのもと、様々な地域資源を活用した発信を行った。

令和４年度は「高校生目線での地域イベントを企画・実践せよ！」というテーマのもと、夏祭りにおけるイベントを企画・実践した。

活動の様子

2　団体の概要（参加者の構成等）

＜高校生＞
青森県立田名部高等学校　14名

＜大人の会員＞
有限会社コスモクリエイト（代表）
一般社団法人tsumugu（事務局）
地域ボランティア

3　取組内容（事業実施の流れ）

令和３年度の活動

R3. 8.22　**PR動画作成に向けたWS**
- 自己紹介
- PR動画の企画づくり

R3. 8.28　**PR動画の撮影・編集**

R3.10.17　**東通村の食をPR実践活動①**
- 東通牛そぼろを活用したレシピ開発

R3.11.28　**東通村の暮らしをPR実践活動**
- ぬぐだまりの利用法発信

R3.12.26　**東通村の食をPR実践活動②**
- 東通牛を活用した
- インスタ映えレシピの開発
- 次年度に向けた作戦会議

PR動画撮影の様子

情報発信の様子

令和４年度の活動

R4. 6.19　**地域イベント企画に向けたWS**
- 夏祭りのイベントアイデア出し

R4. 7.24　**地域イベント企画に向けたWS**
- 盆踊りの企画づくり
- 盆踊り実施に向けた準備

イベントに向けた準備の様子

●イベント全体の補助について

R4. 8.14　**東通ドン！と盆・ボンフェスタ参加**
●受付の補助
●ステージイベントの運営

R4. 8.15　**東通ドン！と盆・盆フェスタ参加**
●コスプレ盆踊りの企画実践
●その他、イベント補助

R4.12.26　**東通村の情報発信**
●ご当地スタンドを活用した情報発信

R5. 1.28　**報告会に向けた発表準備**
●発表資料づくり

コスプレ盆踊りの様子

情報発信の様子

4　成果と課題

発表会の様子

東通YOUTHでは、高校生の主体性を大事にして、様々な地域づくり活動を行ってきた。

令和３年度は、情報発信をテーマのもと、PR動画の作成から編集まで高校生が担当し、１つ動画を作成することができた。また、他の情報発信活動においても各種SNSを活用して、高校生が主体の地域づくりを多方面に発信できた。

令和４年度は、地域イベントを実践するというテーマのもと、行政と民間の若者と連携して、盆踊りイベントをつくりあげることができた。

これは高校生目線で企画から実践まで進めることができたのは大きな成果であった。

課題としては、高校の枠を超えた活動である。本活動では１つの高校に限って活動してきた。次年度は高校の枠を超えて様々な学校と連携して実施していきたい。

5　参加者の感想

発表会の様子

【高校生等の若者】
●東通村の良さを再発見できた。
●自分の将来につながる活動だった。
●行動力の大切さを学んだ。
●人と人のつながりを学んだ。

【地域活動者】

本活動を通して、若者が主役となる村づくりに貢献したと考えている。高校生がプレイヤーとなる活動によって、高校生を支える大人とのネットワークの形成に寄与したと考えている。高校生が卒業後も地域と関わり続けれるように大人側も頑張らなければと思った。今後も関わり続けて、地域をより盛り上げていきたい。

⑩　特定非営利活動法人シェルフォレスト川内（むつ市）

1　活動のねらい・方針

むつ市川内町は人口約3,500人の地域であり、海に森に自然豊豊かな地域である。一方で、その人口は１年に100人もの速さで減少を続けている。そこで、川内町の魅力を発見・発信すべく、むつ市の社会教育施設「むつ市海と森ふれあい体験館」を拠点に下北地域の高校生と活動を実施した。

令和３年度には冬の企画展「We♡Kawauchi」を開催、令和４年度には「川内町の先輩にインタビュー！」の事業を実施した。

「川内町の先輩にインタビュー！」
冊子完成発表会の様子

2　団体の概要（参加者の構成等）

＜高校生＞
青森県立田名部高等学校　３名
青森県立大湊高等学校　　５名

＜大人の会員＞
特定非営利活動法人シェルフォレスト川内
理事長、理事、職員２名

3　取組内容（事業実施の流れ）

令和３年度の活動

R3. 8.22　**ワークショップの実施**
- 自己紹介
- 企画展のテーマや内容について意見出し
- 地域のお寺の見学

ワークショップの様子

R3.10.16　**企画展の準備**
- 海と森ふれあい体験館で実施
- 高校生ほか約10名が参加
- シーグラスライトの作成や企画展のチラシ作成などを行った

シーグラスライトを作る様子

R3.12. 4　**企画展の開催**
- 海と森ふれあい体験館で開催
- 来館者数：延べ136名
- 準備したライトや川内町のマップなどの展示に加え、高校生はタッチプールで、地域で獲れる魚介類の紹介をした。

令和４年度の活動

R4. 7. 3　**ガイダンスの実施**

内　容　他己紹介
インタビュー方法、川内町の自然、川内町の歴史についての講座受講
地域のお寺の見学

歴史チーム記念撮影の様子

R4. 7.24　**インタビューの準備**

内　容　各チームメンバーでの顔合わせ
各テーマについての調べ学習
話し手についての調べ学習

山チームインタビューの様子

R4. 8.12　**歴史チームインタビュー**

内　容　川内町郷土史研究家の方へ「中川五郎治の生涯」をテーマに川内町の歴史についてインタビュー

R4. 8.28　**山チームインタビュー**

内　容　川内町畑部落マタギのお２人へ「畑マタギの今後」をテーマに川内町の山についてインタビュー

海チームインタビューの様子

R4. 9. 3　**海チームインタビュー**

内　容　川内町ホタテ漁師の方へ「豊かな海のためにできること」をテーマに川内町の海についてインタビュー

R4. 9.18　**記事の概要決め**

- インタビューの内容を元に各チーム記事のレイアウトやデザインについての話し合い
- 記事の編集作業

R4.12.18　**「川内町の先輩にインタビュー！」**

内　容　冊子完成発表会
海と森ふれあい体験館で開催
地域内外から約40名が参加
冊子に込めた思いやインタビューの感想について高校生の視点から発表し、参加者に完成した冊子を配布した。

4　成果と課題

川内の魅力をマインドマップにまとめる様子

事業を通して、地域創生に関心のある地域の高校生と活動を進め、様々な地域資源の中に埋もれていた新たな魅力を発掘し、令和３年度には企画展、令和４年度にはインタビュー冊子という形で発信をすることが出来た。インタビュー冊子については、むつ市内の小・中・高校、図書館、公民館に配布、またSNSを利用してデータでの配布も行うなど、多くの方にご覧いただくようにした。

一方で、地域の方からは「このような取り組みを長く続け、深い魅力をまとめていってほしい」という声が寄せられた。そのため、今後も高校生の限られた活動時間の中で活動を継続し、若者の視点からより深い魅力を発信していくための企画や方法を考えていければと思う。

5　参加者の感想

【高校生等の若者】

●R ３企画展について

・自分たちが一生懸命企画したものが目に見える形となり、とてもやりがいを感じた。
・活動を通して人を呼ぶことの難しさや、対応の難しさについて身をもって知った。
・企画展を観光客だけでなく地元の方に見てもらえたことがうれしい。

●R ４インタビューについて

・都会にはない魅力が川内にはあることに気づいた。魅力を語ってくれる人がいるというのも大きな魅力。
・インタビューを通して「今」だけではなく「その後」のことも考えて自分たちの暮らしと自然を守っていかなければいけないと思った。
・普段関わることのないマタギの方のお話を聞いて、山や熊が好きだという熱い想いが伝わって来た。冊子を通して２人の気持ちを多くの人に伝えたい。

【地域活動者】

今回の活動を通して、川内町の魅力を企画展や冊子などの目に見える成果だけではなく、目に見えない部分で地域に残せたものが多くあったのではと思う。インタビュー事業で話し手の方が「今回のインタビューをきっかけに自分でも色々川内について勉強して、川内町について知る良い機会になった。」と話されていて、印象に残っている。話し手も聞き手も、そして冊子の読み手も、「地域に興味をもち、理解を深め、想いを強くする。」そんな地域愛のサイクルが出来たのではないだろうか。

タッチプールのナマコを持った高校生の様子

今後もそのサイクルが途絶えることの無いよう、地域の若者と一緒に発見・発信を続けていきたいと思う。

⑪　市民集団まちぐみ（八戸市）

1　活動のねらい・方針

八戸を代表する食文化であり、暮らしの中でも身近な「南部せんべい」に着目した。お土産として人気が高いものの、若者があまり食さなくなったと言われる「南部スイーツ」。これを、若者らしい発想で新しいスイーツへとアップデートしていくことで、地域の食文化を再発見し、観光資源としてその魅力を発信していく。

てんぽせんべい焼き体験

2　団体の概要（参加者の構成等）

＜高校生＞

青森県立八戸中央高等学校	１名
青森県立八戸高等学校	２名
青森県立八戸東高等学校	５名
八戸工業大学第二高等学校	７名
八戸工業大学第一高等学校	１名

＜大人の会員＞

まちぐみ	20名
特別講師	２名
八戸せんべい汁研究所	多数

3　取組内容（事業実施の流れ）

令和３年度の活動

R3. 8.29
- 参加者　14名
- 内　容　オンラインによる顔合わせ、先輩たちとの交流

R3.10. 9
- 場　所　八戸ポータルミュージアムはっち
- 参加者　10名
- 内　容　てんぽせんべい焼き体験
  先輩たちとの交流

オンライン顔合わせの様子

令和４年度の活動

R4. 5.28
- 場　所　まちぐみラボ
- 参加者　20名
- 内　容　新メンバー顔合わせ
  まちぐみの活動（壁画制作）に参加

R4. 6.11／7. 2
- 場　所　まちぐみらぼ
- 内　容　てんぽせんべい焼き体験
  南部せんべいの歴史講話

R4. 6.12
- 場　所　魚屋　福真（八戸市六日町）
- 参加者　７名
- 内　容　まちぐみシャッター画制作に参加

てんぽせんべい焼き方体験の様子

R4. 9.18～19
場　所　八食センター
参加者　18名
内　容　八戸せんべい汁研究所の活動に参加
（八食オータムカーニバル）

壁画制作

R4.10.22
場　所　まちぐみラボ
参加者　９名
内　容　アイディア会議

R4.12. 4／12.11
場　所　まちぐみラボ
参加者　11名
内　容　南部せんべいグッズ制作

R4.12.18
場　所　八戸ポータルミュージアムはっち
参加者　11名
内　容　南部せんべいグッズ公開制作
まちぐみの活動
（はっちのパーテーションに南部ひしざし参加）

八戸せんべい汁研究所の活動に参加
（八食オータムカーニバル）

R4.12.25
場　所　まちぐみラボ
参加者　17名
内　容　南部せんべいグッズ制作
まちぐみ大学受講
てんぽせんべいでクリスマスパーティー

R5. 1.28
場　所　まちぐみラボ
参加者　17名
内　容　発表会の準備と練習

企画会議の様子

4　成果と課題

コロナの影響で、なかなか集まって活動することができなかったが、感染拡大の谷間に工夫しながらまちぐみの大人たちと様々な活動をすることができた。

また、八戸せんべい汁研究所や東京の学生、北海道の大学生など、八戸市民に限らず、外部の方々との交流も大きな経験であり、今後の財産になっていくだろう。

青森県の事業としては２月で終了するが、２月25日から３月12日まではっち１階ギャラリー１で開催する「まちぐみ展８」の会場で、高校生たちが作った南部せんべいグッズの販売や、市民の皆様にも南部せんべいグッズ作りを体験していただける「南部せんべい体験屋台」を出展する予定である。

この事業で得た南部せんべいの知識を活かし、ここでも多くの市民や観光客の方々と交流が生まれると予想している。課題として、勉強や部活など予想以上に忙しい高校生が集まる機会を確保することが難しく、地域の伝統食を知る授業のような形にできれば、もっと深い活動になったかも知れない。

5　参加者の感想

【高校生等】

●自分の考えたものが形になるとやっぱり感動した。そして、それを評価されるともっとうれしい。上手くいくかは置いといて、やってみることが、大切なんだと改めて感じた。そして、発表会ではかっこいいとか不格好とか関係なく、やったことに対して、行動を起こしたことに対して評価してもらい、なんかよく分からないけど達成感らしき心の動きを感じた。
今はうれしいし、これからの活動が地域と深く関わっていけることにワクワクする！活動を通して、どういう事が好きか、得意か、嫌いか苦手か。自分の事がよく分かった。
この経験は大きいと思う。

南部せんべいグッズを制作する様子

【地域活動者】

●前身の「高校生とつくる南部せんべいカフェ」時代からずっと関わらせていただき、毎年高校生が卒業し、また新たに入ってくるこの活動を通して、卒業して県外へ出て行ってしまった子たちとは、SNS等で繋がり続け、また地元に残った子たちとは今も一緒にこの活動などで時々再会することがある。昨年と今年参加してくれた子たちの中にも、今後ずっと繋がっていける子がいると思うとうれしくなる。
人生は人との出会いであり、選択の連続である。今回の経験が、その節々でヒントになってくれたらうれしいと思う。そして、困ったら相談に来てくれたらもっとうれしい。そういう関係構築の種まきが、大人の役割だと改めて感じさせてくれる素敵な経験だった。

高校生と大人が制作した南部せんべいグッズ

⑫　サンノヘエール（三戸町）

1　活動のねらい・方針

本団体は、地域の高校生と大人が協働で地域資源を磨き、価値を高め、三戸町への誘客集客に繋げることを目的としている団体である。また、地域の高校生には、活動を通じて地域の魅力を知る機会を得ることも目的である。

2　団体の概要（参加者の構成等）

＜高校生＞

青森県立三戸高等学校	13名
青森県立八戸高等学校	１名

＜大人の会員＞

サンノヘエール	９名
太子食品	３名
青森県立三戸高等学校教員	２名（事業協力校）

3　取組内容（事業実施の流れ）

令和３年度の活動

R3.10. 5　**アコースティックライブ企画会議１**

R3.10.12　**アコースティックライブ企画会議２**

R3.10.23　**アコースティックライブ開催**

場　所　三戸町城山公園内糠部神社拝殿
参加者　運営スタッフ12名（内、高校生５名）
ライブ観覧者約100名
内　容　三戸町、周辺地域のアマチュアバンド演奏
三戸町、田子町、南部町飲食ブース出店、高校生は、受付と出店事業者の手伝いを実施

アコースティックライブ

R3.11.19　**三戸町まちあるきコンテンツ企画会議**

R3.12.12　**三戸町まちあるきコンテンツ企画準備フィールドワーク開催（午前）**

場　所　三戸町中心地
参加者　運営スタッフ11名（内、高校生６名）
内　容　高校生と共にサンノヘエールが開催する通常のまちあるきコースを巡り、それぞれの視点での訴求ポイント、改善ポイントを記録。
三戸町まちあるきコンテンツ企画準備

まちあるきフィールドワーク

ワークショップ開催（午後）

場　所　三戸町中央公民館
参加者　運営スタッフ11名（内、高校生６名）
内　容　フィールドワークにて記録した内容を基に、２つのグループにて企画した。
企画コースを発表後、高校生の企画案をもとに、まちあるきコースを決定。

令和４年度の活動

R4. 6.23　**城山公園ライブ企画会議１**

R4. 7.14　**太子食品工業㈱へのプロジェクト協力要請打合せ**

R4. 8.23　**城山公園ライブ企画会議２**

R4. 9.23　**城山公園ライブ開催**

場　所　三戸町城山公園内糠部神社拝殿
参加者　運営スタッフ９名＋八戸市内中学生３名
ライブ観覧者約100名
内　容　三戸町、周辺地域のアマチュアバンド演奏
三戸町、田子町、南部町飲食ブース出店
八戸市内中学生はライブ演者として参加協力
※高校生は中間考査期間と重なり参加自粛

R4.10. 8　**本場のタホを知るワークショップ**

場　所　青森県立三戸高等学校
参加者　運営スタッフ11名（内、高校生５名）
内　容　参加者自己紹介
太子食品工業、三戸町、サンノヘエール紹介
フィリピン出身者による伝統スイーツタホの試作と試食

R4.11.21　**三戸町版タホ試作ワークショップ**

場　所　青森県立三戸高等学校
参加者　運営スタッフ13名（内、高校生８名）
内　容　前回試作したタホをベースに三戸町の地域産品を組合わせてた、三戸町オリジナルのタホの試作と試食

R4.12. 9　**三戸町版タホ試作品提案発表準備**

場　所　青森県立三戸高等学校
参加者　運営スタッフ７名（内、高校生５名）
内　容　前回ワークショップにて確定させた三戸町オリジナルのタホを町民へ発表するための提案資料やレシピの作成

R4.12.17　**三戸町版タホ試作品提案発表／試食会**

場　所　コワーキングスペースSANNOHE
参加者　運営スタッフ８名（内、高校生５名）
三戸町松尾町長、町内商店飲食店事業者５名
内　容　参加者へのプロジェクト説明
２年生チーム、１年生チームによる試作した三戸町オリジナルタホのプレゼン、試食、質疑応答

まちあるきグループワーク

城山ライブに演者協力した中学生

本場のタホを知るワークショップ

三戸版タホ試作ワークショップ

三戸版タホ試食会

4　成果と課題

はじめに成果として挙げることは、地域活動へ積極的に参加したいと考える高校生が、実際に三戸町や周辺地域にいることが分かったこと、参加した高校生が一過性ではなく通年、連続して参加したいと意欲を持っていることが分かった。また、地域事業者や地域住民と高校生が関わるきっかけを作ったことで、双方から次への活動意欲や協働の喜びが挙げられたことである。

次に課題として挙げられることは、高校生と地域の大人との協働活動のスケジュール調整である。地域活動を推進する大人たちが活動できる日が一致しても高校生の考査日と重なってしまったイベントもあった。

5　参加者の感想

【三戸町版タホ商品開発プロジェクトに参加した高校生の感想】

- フィリピンの郷土料理を味わうことができて良かった。地元の特産品になればいいなと思った。
- 黒蜜に桃ジャムが合うと思っていなかったけれど、意外と相性が良くて驚いた。地元の食べ物を使った町おこしに関われて楽しかった。
- タホ自体初めて知り、どんな商品に仕上がるのか心配のほうが大きかったけれど、三戸町の特産品を使っておいしく仕上った。この商品が三戸町が盛り上がるきっかけになればいいと思った。
- 参加する前は「豆腐とタピオカ？」と思っていたが、意外と美味しくて驚いた。タホをたくさんの人に味わってもらって地域の魅力になってほしいと思った。
- 今まで知らなかったタホというスイーツを知っただけでなく、三戸郡内でつくられているジャムなども知ることができて楽しかった。
- 少しでも三戸町の活性化に、私達のアイディアが役立てばいいなと思い、参加した。タホを通じて三戸の様々な魅力に気づき、地域について深く知ることができた。

三戸町内事業者に向けたプレゼン

第４章　活動成果発表会の開催

高校生等の若者が、地域活動者とともに主体的に地域活動の企画・実践を行うことにより、若者の自己有用感及び地域愛を育み、県内定着の促進を図る仕組みを構築することを目的とした本事業において、各団体が取り組んできた活動成果を発表するとともに、各団体同士の交流の場とすることを目的に実施した。

開催日時	令和５年２月５日（日）13：00～16：00
会　　場	青森県総合社会教育センター
内　　容	12団体の高校生等による活動成果発表
講 評 者	青森大学社会学部　教　授　櫛引　素夫　氏
	十和田バラ焼きゼミナール　舌校長　畑中　宏之　氏
	株式会社まちなかキャンパス　代表取締役　辻　正太　氏
進　　行	FMあおもりパーソナリティ　柳澤ふじこ　氏
発表内容	活動のテーマ・方針、活動内容、成果・課題等
来場者数	121名

Future Generations

Asobo!Hirakawa

つるた街プロジェクト

特定非営利活動法人 日本人財発掘育成協会

サンノヘエール

特定非営利活動法人 シェルフォレスト川内

Misawa English Activiyies

特定非営利活動法人 SEEDS NETWORK

じゃわめき隊プロジェクト

青森街活サークル秘密結社

市民集団まちぐみ

東通YOUTH

発表を参観する来場者

講評者の方々

活動成果発表会参加者の感想　※主なもの

- 多様な内容、価値観がある実践を今回のような場で共有できる価値は非常に大きいと感じた。今日参加した高校生は、さらに大きく成長し、将来を考えたことと思う。
- 活動を通して、自分を知る、自分の周囲に気づく、考える機会を得て、成長していることをよく理解できた。学校の中にいるだけでなく、外とつなげる大切さを改めて感じた。
- どの団体の高校生もしっかり発表の準備をしており、質問に対する受け答えも立派だった。
- 各団体の発表が大変工夫されており、感銘を受けた。どの団体も先を見据えた活動がなされており、今後の活動が楽しみだ。
- どの団体の高校生も生き生きと活動しており、とても素晴らしかった。社会を生きていく力ってこういうことだなと考えさせられた。
- 司会者や講評者との間にやりとりがあり、聴衆として聞きたいことが聞けたり、発表になかった高校生の本音が聞けたりしたことがよかった。

第５章　まとめ

成　果

本事業に参加した高校生の感想を見ると、「商品開発を通じて、町の様々な魅力に気づき、地域を深く知ることができた。」、「地元に就職することは選択肢に無かったが、大人との対話によって、地元で働くことの良さを発見できた。」など、改めて地域の良さについて発見したり、将来について考えたりするきっかけになっていることが伺える。

また、地域活動者からの感想では、「昨年度参加した高校生が〇〇大学に進学し、弊団体が協働する学生団体に加入して事業の企画・運営を担い、高校生の活動をサポートしている。」、「参加した高校生から『今後も〇〇のメンバーとして活動していきます。』と当たり前かのように言われたことが最高にうれしかった。」など、今回地域活動団体とつながった高校生が継続して地域活動に携わりたいという声が多数聞かれ、本事業の目的でもある「つながり」を育むことができたものと考えられる。

これらの感想からも、地域の大人との対話や活動により、高校生等の自己有用感が高まり、地域を愛する心を育むことに一定の成果があったと考えられる。

また、高校生等が主体的に行動できるよう地域活動者がサポートしたことで、若者独自の発想により、地域の中の強みや眠っている資源を掘り起こして活用することができたのではないかと思われる。

課　題

高校生と地域活動者の両者からは、「学校生活が忙しい。また、参加する高校生が様々な高校から集まっているため、活動日の調整が難しい。」といった意見が出され、忙しい高校生活の中で、いかにして地域活動の時間を確保するかが課題となっている。

また、地域活動者からは、「地域と結びつきながら活動することは、高校生にとって非常に意義のあることが分かったが、この意義が学校、地域住民にはまだまだ浸透していない。」、「この活動を継続していくため、団体だけではなく、行政とも連携して行うなどの『仕組み』の構築が地域に必要である。」といった意見が出され、地域の未来を担う人財を地域で育むことについて、学校、地域の更なる連携・協働が必要であるとともに、今後活動を継続して行うための仕組みづくりが必要である。

事業のまとめ

本事業は令和４年度で終了となるが、今回高校生等の若者と地域活動者がつながり、共に活動を行ったことで、高校生等にとっては地域のよさを再確認することができ、地域活動者にとっては、地域の人財を地域で育むことの必要性について理解することができたと考える。

また、活動成果発表会に参加した方からは、「どの団体の高校生等もいきいきと活動しており、とても素晴らしかった。社会を生きていく力ってこういうことだと感じた。」といった肯定的な感想が多く、高校生等が様々な大人や地域の人々と交流することの必要性についての意見が多く述べられていた。

本事業の目指すところは、地域の若者が地域で活動を行うことにより、個々のキャリア形成が図られ、自己有用感を高め、さらには地域への愛着を深めること、そして、地域活動者が事業終了後も、自らの地域の若者を巻き込み、持続可能な活動が行われるノウハウを身につけ、サイクルを確立していく

ことである。

これらを継続して行うためには、各地域活動団体の活動だけではなく、小・中学校が行っている「総合的な学習の時間」や、高等学校が行っている「総合的な探求の時間」等において、地域活動者等の地域人財や企業等と連携して活動を行うこと、そして、国でも取組を推進している地域全体で子どもたちを育む「地域学校協働活動」をこれまで以上に促進していくことも重要である。

県教育委員会では、引き続き高校生等と地域活動者がつながりを持てるよう、地域活動者の情報を学校側に伝えるほか、市町村教育委員会が自らの地域の活動者とも連携できるよう橋渡しをするなど、高校生等と地域活動者が共に活動できるような支援を行っていきたい。

地域活動団体　連絡先

団体名	代表	担当	メールアドレス
特定非営利活動法人 日本人財発掘育成協会	理事長　坂本　徹	大鷹　依子	fun@jinzai-japan.com
青森街活サークル 秘密結社	団　長　鈴木　忍	高山　寛也	takayamab188@gmail.com
五所川原じゃわめき隊	代　表　三國　佑太	三國　佑太	jawamekitai@gmail.com
つるた街プロジェクト	代　表　岡　詩子	岡　詩子	tsurutamachi8@gmail.com
特定非営利活動法人 SEEDS NETWORK	理事長　大西　晶子	大西　晶子	info@seedsnetwork.or.jp
Asobo! Hirakawa	代　表　一戸　健児	一戸　健児	asobo.hirakawa@gmail.com
Future Generations	代　表　新山　恭孝	新山　恭孝	y-niiyama@syuugaku-zemi.com
東通YOUTH	会　長　氣仙　亮輔	小寺　将太	tsumugu@cosmoltd.co.jp
特定非営利活動法人 シェルフォレスト川内	理事長　内田　征吾	山田菜生子	info@shell-forest.info
市民集団　まちぐみ	組　長　山本耕一郎	山本耕一郎	kumicho@machigumi.main.jp
サンノヘエール	代　表　五十嵐　淳	五十嵐　淳	jun.igarashi@sannohe-yell.jp

「地域の思いをつなぐ」若者育成事業

若者が地域の未来を切り開く！

活動事例集

発行年月　令和５年３月
発　　行　青森県教育庁生涯学習課
〒030-8540　青森市長島１丁目１番１号
Tel 017-734-9888　Fax 017-734-8272